

会 議 録

会議の名称	平成24年度 第1回豊中市図書館協議会図書館評価部会		
開催日時	平成25年(2013年)1月19日(土)10時~12時		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	生涯学習推進部 岡町図書館	傍聴者数	4人
公開しなかった理由			
出席者	委員	是山 康代 松田 美和子 青木 朋美 村上 泰子	
	事務局	羽間生涯学習推進部長 山羽生涯学習推進部次長 堀野岡町図書館長 北風千里図書館長 大原野畑図書館長 木村庄内図書館長 江口岡町図書館副主幹 松井岡町図書館副主幹 西口岡町図書館主査 古森庄内図書館主査	
	その他		
議題	1. 委員の紹介について 2. 豊中市立図書館の評価システムについて 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成24年度（2012年度）図書館協議会図書館評価部会

日時：平成25年（2013年）1月19日（土）10時～12時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 是山 松田 青木 村上(部会長)

事務局 羽間 山羽 堀野 大原 北風 木村 江口 西口 古森 松井

開会

資料確認

委員の紹介

委員（欠席者）の紹介

●生涯学習推進部長よりあいさつ

本日はお忙しい中、図書館協議会図書館評価部会にご出席いただき、ありがとうございます。委員の皆様には、本部会の臨時委員をお引き受けいただき、お礼を申し上げたい。また、本市の図書館行政について、日頃より多大なご協力とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

豊中市の図書館は、昭和20年に開設以来、身近な生涯学習の中核施設として、市民に親しまれ、いつでも、どこでも、だれでもをモットーに、図書館活動の推進に取り組んできている。

しかし、本誌の財政は危機的な状況にあり、平成20年以降も「新・豊中市行財政改革大綱」に基づき取組みを計画的には実施してきている。図書館においても、これまでも時代のニーズにあった新たなサービスの展開や、事務の効率化に取り組んで参ったが、さらに時代のニーズ・市民ニーズにあうよう、これらの取組の一層の強化に取り組んでいく必要がある。

こうした状況の中、平成20年度から図書館協議会の提言を受け、全国的に見て先進的な取組みとして評価いただいた「豊中市立図書館評価システム」を導入し、翌年には図書館運営に関する自己点検と外部評価を実施した。今年度は2回目となり、自己点検結果や図書館利用者アンケート調査結果などにより、あらたに外部評価を実施することになっている。図書館運営の評価に関しまして、皆様の率直なご意見と、お知恵をお借りしたい。

●部会長あいさつ

私たちは今、知識基盤社会を生きているが、グーグルなどの検索サイトが身近なものになり、情報が大変たくさん容易に手に入るようになり便利になった反面、またグーグルなどで検索されて出てくる情報の偏りや誘導情報などの悪影響についての認識も、少しずつ社会の中で広がってきた状況にある。そういった知識基盤社会を生きていく人々を支えるために、図書館が誰もが使える確かな情報を提供していくことが重要である。また、子ども達が図書館の資源を活用できる市民となって、様々な情報を判断する力を身につけられるよう、子ども達を育てていく上でも、幼児期からの図書館の利用を推進する、子ども読書推進の取組みが重要だと思う。そういった役割を持つ現在の図書館のありようというものを、今一度振り返ってみることが、この図書館評価システムと外部評価の役割だと思う。図書館内部で振り返る作業を通じて、働いている職員がみずから図書館サービスを自己点検評価し、課題を見出し改善し

ていくだけでなく、そこに外部の見方を付け加えるために、図書館評価部会の私達がいる。外部に対して、図書館の働きや役割、普段のサービスを知っていただく、そういった意味でも心して取組んでまいりたい。市民の皆さんとの協働をすすめる姿勢の表れとして、この外部評価の部会にも、臨時委員を新たに迎えて評価活動に入らせていただいている。よろしくお願いします。

●部会長

それでは本日の議事を進める前に、ここで少し図書館協議会図書館評価部会の運営方法について、委員の皆さまにご了承をいただきたい。

豊中市では原則的に会議を公開しており、本日も4名の方が傍聴に来ておられる。まず傍聴は10人の定員としているが、希望者が定員を超えた場合、傍聴していただく方の数については、そのときの状況を見ながら、私のほうで判断させていただくということによろしいか。なお、傍聴の方にはアンケートをお願いしている。協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に皆様にもお伝えすべき内容のものについては、ご報告させていただく。

次に会議録については概要というかたちで、発言者については個人名を掲載せず委員とのみ表記することで、よろしくお願ひしたい。

それでは、「豊中市立図書館の評価システム」について、事務局から説明をどうぞ。

●事務局

まず、この評価図書館評価に関する部会の位置づけについて、ご説明させていただきたい。前回の平成21年度の外部評価は、「豊中市立図書館評価検討委員会設置要綱」に根拠を置く会議としての位置づけで実施した。しかし、それ以降に要綱に基づき設置した「地域自治システム調査検討委員会」の委員に対して支払われた謝礼金の違法性をめぐり住民監査請求が提起され、請求自体は棄却されたが、地方自治法第138条の4第3項における附属機関に該当するものであったと結論付けられた。このことの意味は、調停、審査、諮問又は調査を行うために審議会等の附属機関を設置するには、法律または条例の定めが必要だという判断である。監査結果を踏まえ、要綱に設置根拠を置く「図書館評価検討委員会」については、条例設置とするか要綱設置でいいのかを関係部局と調整した結果、図書館条例を改正し、図書館協議会に属する部会として位置づけることにし、名称も「図書館協議会図書館評価部会」とさせていただいた。

引き続き、図書館評価システムの成り立ちについて、ご説明したい。

図書館評価システムの策定の経緯としては、指定管理者制度の導入の是非を含む広く運営のあり方を諮問した結果、平成17年図書館協議会の提言「これからの豊中市立図書館の運営のあり方」が示された。現状においては「なじまない」としつつ、図書館内部での徹底した自己点検、自己評価を要請するという内容であった。そこで、評価のあり方について諮問を行い、平成19年「豊中市立図書館における評価のあり方について」という提言が示された。本日配布している「図書館の使命・理念、基本目標」というA4一枚ものを見ていただきたいが、図書館の目指すべき方向性を定め、図書館内部で共有すると同時に、市民にも公表し共有をはかり、それが達成できているかを評価するための評価システムの構築に取組んだ。PDCAサイクルに基づき、さらなるサービス改善につなげることを第一義としており、職員間共有と市民にお示しすることを目的として取り組んでいる。

具体的には、内部の評価担当者会で毎年リーディング項目評価について数値を入れて振り返り、平成20年度の時点に掲げた数値に対して、課題と次年度の方向性を定め、通常は年度ごとの自己点検報告書を作成しているが、今回の自己点検報告書は3年度を振り返って作成している。

また、中項目が達成されているかの観点から、本当に市民の方のニーズに合っているか、アンケート調査の結果もふまえて、3年のサイクルで外部評価をお願いしている。他市との比較では、人口30万以上の68都市の政令指定都市を除くところと比較しているが、しかし残念ながら全国的には同じような指標数値があまり出されていないため、比較できる項目は多くない。

評価の体系は、大項目は2部構成で、「1. 管理運営」として6項目の中項目があり、「2. サービス内容」として10項目の中項目があり、サービス指針ごとに指標を設定している。

アンケートの2種類については、利用者アンケート調査報告書をお手元に配布したが、来館者対象のアンケートを、4日間で3000部配布。郵送による市民アンケートは、3500部で、こちらは図書館を利用していない方を含めて実施しているもので、今回はスポーツ振興計画を策定するためのアンケート実施に相乗りする形で実施した。

●部会長

ここまでの事務局からの説明について、確認したいことや配布資料について質問があれば出していただきたい。

●委員

リーディング項目表を見ると初めのページに、職員の人材育成・研修というところがある。図書館を利用する人にとって、サービスの内容に反映する大事なことだと思う。研修の中身は、外部研修と内部研修があるようで、その件数や人数が挙げられているが、そもそも図書館に現在勤めている職員数は、全部で何人か。

●事務局

図書館職員の人数は、正規フルタイム職員が65人、再任用職員が8人、任期付短時間勤務職員が32人と、ここまでの105人、それ以外に臨時職員が20人で合計125人、この他に土曜や日曜だけ勤務するパート職員がいる。

●委員

職員全体で何人か。

●事務局

正規、再任用職員、任期付短時間勤務職員、臨時職員合わせて125人と、土曜だけ日曜だけあるいはその両方勤務というようなパート職員がいる。

●委員

では、離職率はどういう状況か。

●事務局

基本的に臨時職員の場合も一年雇用が基本の形なので、とくに離職率という数値はない。

●委員

では、基本的なミッションを共有するために行う研修を受けるのはどの職員か。一部の同じ職員が受けているのか、全員なのかで意味が違うと思うので、お聞きする。

●事務局

市の職員として基本的に必要な内容の研修、たとえば人権研修などは、全員を対象として実施し受講するが、その他様々なサービス内容に関わるテーマの研修については、正規、再任用、任期付短時間勤務職員が受講している。研修の内容と参加する職員の担当業務との関連を考慮して受講する。たとえば、児童サービスに関する研修の場合ならば、子どもたちへのサービスを担当する職員を中心に、その研修を必要とする職員が受けるように、業務へのつながりを意識して受講している。

●委員

新規職員対象の研修はどうか。毎年新たな雇用があるのかないのか。あるならば、どのように実施しているのか。

●事務局

新たに採用された職員の研修に関しては、市として新採用職員への研修プログラムが生まれ、それを受講するとともに、図書館内部の研修も行っている。そのような状況である。

●部会長

今回の評価部会で行うことについて確認をしておきたいと思うが、小項目ごとに細かく検討するのは大変項目数が多く難しい。そこで中項目ごとくらいに我々外部評価の部会としては評価を行うことにしたい。それに使う材料、評価をどう見るかという材料が、配布された3年間のリーディング項目表と、自己点検報告書、そして市民や利用者はどう見ているかを我々が判断するかの材料としてアンケートの2種類、郵送による市民アンケートと利用者アンケートがある。

前回も行っており今回も必要な検討事項としては、指標自体の検討である。その項目を表す指標として、ふさわしい指標かどうかというようなところを見ていく。その過程で、付けくわえた方がいいというような場合は、そういう意見を出すか、指標は膨らみがちな傾向があるので、付け加える時には、スクラップ&ビルドで優先順位を考えていきたい。また、前はなかったが今回行う必要があることとしては、3年間の評価である。設定された達成目標についてどうであるかを取り上げる。

さらに、この評価部会のスタンスとして一つ確認しておきたい。運営についてのところで、現在運営のあり方については、親機関にあたる図書館協議会に諮問が出されていてそちらで検討を予定していることから、ご意見を伺うことはするが、この部会で方向性を示す等はしない。

今後の予定については、あと3回ある。議論の中心は次回となろうが、今日はざっくりばらんに、何でも聞きたいことを質問していただきたい。

●委員

図書館の周知の工夫については、ホームページ等で行われているが、今後に向けて、新たに計画
中の新しい機能や、リサーチの方法等の提案などがあるか。

●事務局

前回はPRが不十分であるという指摘があり、図書館のPRの問題は課題と認識をしている。ご
自身でホームページから様々な調べ物が可能なように、調べ方の手助けとなるような「検索ナビ」
のようなツールなども作成し、ホームページに掲載しているところで、個々のニーズに応えること
のできる機能の充実を図ろうとしている。

●委員

図書館というフォーマルな資源を、インフォーマルなところに届けようとしていると受け止めた
が、たとえば今現在抱えている課題について、重要度の高い課題は何か、優先度の高いものとして
は何か、一つずつ挙げていただきたい。

●事務局

それぞれ一つと問われると難しいが、重要度の高いミッションとして、公共図書館と学校図書館
の連携を深めることで学校図書館の活性化に取り組むために、読書振興課が作られ、「とよなかブ
ックプラネット事業」という、学校図書館との連携支援を意識して市立図書館と学校図書館の一体
的な運営、資料の効果的な運用などに取り組んでいるところで、それが重要度の高い課題と言える。
また、図書館では子ども読書活動推進計画という市の計画に関わって力を入れて取り組んできたが、
その中で課題として挙げられていることとしては、小学校で司書のいる学校図書館で低学年から読
書と親しんだ子どもたちも、徐々に本から離れてしまう傾向にある。そのような世代へのYA（ヤ
ングアダルト）サービスの展開も課題である。また、人口構成変化を受けて成人の方、中高年の方
を対象にするサービスにも今後力を入れていく必要があると考えている。

また、豊中市の計画や市を挙げての取組みの姿勢として、協働ということがあり、図書館におい
ても、市民や地域との協働を意識して取り組んでいる。

●委員

それでは優先度の高い課題の方はどうか。同じか。図書館サービスの歴史を振り返って、守りたい
ことは何であると考えているか。

●事務局

豊中では、公共図書館と学校図書館との連携にずっと取り組んできているが、公共図書館と学校
図書館では、やはり使命や目的が異なる。連携を進める中でも大事にしないといけないと度々気
づかされることは、やはりお互いの特徴をわきまえたサービスをするということだ。学校図書館に
は授業の支援、先生への支援などを含めて、学校教育の中で果たすべき役割があり、公共図書館は
資料や交流を通じて、支援・連携・協力をしてまいりたい。

●部会長

他の委員も質問の意図を共有したいので、少し説明を少し補足していただけるとありがたい。

●委員

マネジメントをしていく観点から、PDCAサイクルやアセスメントなどを意識し、そういう中で何を優先して考えていくべきか、厳しい質問の出し方になるが、よりよい図書館サービスの実現を願って行う質問とご理解いただきたい。

サービスの対象、ニーズ、成果、発展させるファンクション、その中で何を充実させ取り組むべきかを考えることが必要だ。私は高齢者福祉のサービスの事業者として、やはり地域に深く根ざして、地域の人々とながら運営に努めている。住民の参画を促し新しい共生社会づくりのために何ができるかと、考えながら取り組むことにおいては、切り口が違っても、その取り組みの姿勢は同じだろうと思う。時代がかわるにつれて、地域のあり方も変わっていくが、課題の中から改善に取り組んで、もともとあるものの中で良いものは大切に使いながら、地域を新しくつくっていくことが大事だと考えている。そういう意図からの質問をさせていただいている。

●部会長

図書館というのは、かなり幅広いサービスの対象範囲や内容を持っている。たとえば5年先を展望したときに、トピックスとして取り上げるようなこともあるだろうが、一方で図書館サービスでは、日常的に利用されるとても地道な日常のサービスが実は大変重要であり、足元の地盤を確かめ固めつつ、その上に立って進めるのが大事だと思う。サービス対象が幅広いことから、優先順位として何が大切かということも考えていかなければならない。たとえば、子育て世代と高齢者世代では、大事にしたいことがそれぞれ違って当然なので、大変多岐にわたる利用者の環境や年齢、そのような一つ一つに丁寧に対応することが大切だと思う。

●委員

先ほど学校図書館の話題が出たが、子どもが小学校に行くようになって知ったことだが、小学校の学校図書館に司書がいて、教室とはまた一つ違う雰囲気の良い空間があること、子どもたちにとって時にはのびのびと、ときには少しホッとできる居場所となる空間であることを感じて、とても良いと思った。中学校図書館にも司書のいる学校図書館があるそうで、嬉しい。

自分は、東豊中図書館をよく使うのだが、東豊中図書館は夕方5時で終わるので、全館そうかと思っていたが、資料を見ると全部一緒というわけではないということだが、どうしてそういう違いがあるのかなと思った。また、動く図書館が近くのジオに巡回してくるが、この地域は図書館が遠くて、子どもたちがとても多い地域だ。月1回の巡回をニーズが高いところには頻度を多くできると良いと思う。

●委員

学校図書館が公共図書館の協力を得て充実に向けて取り組みを続けていることについては、大人になった時を見据えて、今現在の子供達に向けて支援していくという、子供達の10年後20年後につながるような種をまく仕事かもしれないと思う。子供達の育ちにどのように関わって支援していくかは、豊中市全体の課題でもあり、私たちも協力していきたい。また、高齢者が増加していること、今後も増えていくことは確かなことで、高齢者の今後のニーズを考えてみると、ひとくくりにはできない多様性があると思う。元気な高齢者の方もおられれば、体の不自由な方もお

られ、ひとりひとりそれぞれ利用の仕方が違ってくる。現役リタイア後元気で地域で活動したい、地域に還元したいという方も大変多いと思うので、そういう場としての図書館の役割も求められていると思う。

●部会長

そのあたりのことは、リーディング項目表や自己点検報告書では、どのあたりに記載があるか。

●事務局

リーディング項目表の14ページ、大項目2の中項目8のあたりになる。

●事務局

今の高齢者の立場といっても、やはり分けて考える必要があると思う。何かしら図書館の利用をするのに障害があるという方はたくさんおられ、もっと元気で図書館だけでは、幅広い地域のニーズや情報を把握していくことが難しい。まわりにいらっしゃる方への情報提供を丁寧に行うことと同時に、施設職員の方を含め周囲の方々から情報をいただいてサービスにつなげていくような、連携も大変大切だと思っている。

●委員

何歳から高齢者だと決めつけられるものでもないが、リタイアされた方にとって、図書館が研究成果の発表の場につながるような、その方の生きがいと結びつき、交流を通じてその人自身が育っていくような機会がとても大切なように思う。

●委員

先ほど優先度が高い課題として、中高年以上の方へのサービスを挙げられたが、重要度も一緒だととらえて良いか。

●事務局

成人へのサービスをより丁寧におこなっていくという方向性のなかの取組みとして、昨年度から「暮らしの課題解決」支援サービスとして、医療、ビジネス・就労、子育て・DV、多文化共生そして調べ学習の資料を充実させて、資料・情報案内のパスファインダーも作成して配布するなどを行っているほか、関連部局や機関と連携事業で講演会を開催したり、図書館として事業に参加するなど取組んでいる。

●委員

少し違う視点からの質問をしたいと思うが、図書館行政のなかで、毎年古くなる本というものも出てくるだろうと思うが、図書購入費という点ではどうなっているか訊ねたい。図書購入費として予算化されるのか、事業全体の費用が決められていて、その中の配分をまかせられている形なのか、どちらか。ここ数年の図書購入費の動き、増減の傾向は、上向きか下向きか横ばいなのか。

●事務局

図書購入費として予算化され額が決められている。ここ数年、横ばい状況が続いている。昨年度は、国の「住民生活に光をそそぐ交付金」によって、1,500万円の資料費が増えたが、今年度はまた元にもどっている状態である。

●委員

先ほど、指定管理者制度については、そぐわないという答申が以前にだされたとのことだったが、どういうことだったのだろうか。

●事務局

平成17年度の図書館協議会でいったんそぐわないという答申が示されたが、8年近く時間が経っていることもあり、現在また指定管理者制度等を含め検討を諮問しており、経営コストや、役割等の観点から検討を行う予定だ。

●委員

検討をまたするということだが、現在は過渡期になるという認識をしたらよいか。

●事務局

過渡期というより、再度検討を行うために諮問を行ったということだ。

●委員

図書館の評価をする会議に出席するということで、近所や周囲のいろいろな人に、図書館についての疑問を聞いてきたので、それを質問したい。

音楽のCDをじっくり聴いて楽しむことのできる席やコーナーなどはあるか。また、子どもが寝転んだりしながらゆったりと本を楽しむことのできる畳のスペースはあるか。

●事務局

全部の館にというわけではないが、CDを視聴できる席を設けている館はある。同様に、ほとんどの館の子ども室にカーペット敷きのコーナーがあり、利用していただいている。

●委員

図書館ホームページのセンスが良くない。センスの良い魅力的なホームページにしていくために、どういう計画か。デザイナーに依頼して作っているのか。UPすることに手間のかかるシステムなのか、それとも中身を充実していくことがあまりできずにいるということか。

●事務局

図書館システムの一部としてデザイナーが作成したもので、内容の更新は自分たちで行っているが、形そのものを簡単に変えることはできない仕組みになっている。今後のシステムの更新の際に、もう少し変えやすい形にしていきたい。

リーディング項目の中に「図書館ホームページ更新頻度」という指標があるが、自己点検評価作業の際に図書館職員で構成する評価担当者会の中でも意見が出ていた問題として、たとえば「豊中

市新聞記事見出し検索」や、「レファレンス事例」等データベースへの登録などのコンテンツデータ追加については、日常業務の中でデータを追加入力して蓄積しているにもかかわらず、更新頻度回数としてはカウントされないため、指標数値結果として表れていない。コンテンツの充実のためのデータ追加として、実際日々様々な情報を加えているのだが、数値として挙がってこない問題があることを認識している。

●委員

地域の方の自己実現の場として、自分の作品などを発表するためのギャラリースペースはあるか。

●事務局

各図書館いずれも、すごくスペースが限られているので、専用ギャラリーとしてはない。しかし、期間限定した展示コーナーとしては、各館限られたスペースのなかで、館内展示を設けて展示を行っている。たとえば、千里図書館では今月 22 日から開催予定のものとして、ユニセフの活動をされている方からパネル展をという話があり、一緒に企画から取り組んでいるが、そのようなことを各館行っている。

●委員

そのような展示は、ユニセフのような機関でないとできないのか。他のグループや個人ではできないのか。

●事務局

各図書館に内容等ご相談していただければ、様々な展示を実施することが可能である。

●委員

急な雨などの時の貸傘はあるか。

●事務局

各館、予備のビニル傘や長い間取りに来られない傘などをお貸ししている。職員に声かけしていただければ、対応している。

●委員

ライブイベントや演奏会などの実施についてはどうか。

●事務局

これも、館によってということになるが、集会室のある館では、催しの一つとして実施することがある。

●委員

どんな本やCDを置いてほしいか等、利用者の希望は聞いているのか。そういうことを聞くための利用者へのアンケートはおこなっているのか。

●事務局

「市民の声」や、利用者の方から図書館への意見箱を用意して、実際に様々なご意見をいただいている。また、資料についての希望を伺うという意味では、資料名を特定したリクエスト制度で個々のご希望を伺っているが、こんな本をというようなアンケートを定期的にとるようなことはしていない。

●委員

飲み物の持ち込みはできるか。

●事務局

元来、原則としては図書館内飲食禁止であるが、昨今の厳しい気候変動で、特に夏場はむしろ熱中症予防のため水分補給が欠かせない状況があったり、健康上の理由で必要な方もおられるので、完全に持ち込み禁止とは申し上げていない。ただ、ボトルを閲覧室の机の上に出して置かれていると、かばんの中に入れておいてくださいとご案内することはあるが。

●委員

カフェスペースのようなものがほしいということだと思う。

●委員

NPO等との協働について、市民協働を重要だと考えているということだが、具体的に聞きたい。

●事務局

豊中市は基本姿勢として市民協働を掲げ、市民と一緒にまちづくりをする、一緒につくっていくということを、市政全体の様々な分野にわたって掲げながら施策を実施しているところだ。図書館では、市の施策のなかで「市民協働」と言われる前から、子ども読書活動推進計画につながっていったような各種の取組みにおいて、また障害者サービスでの音訳・点訳・対面朗読ボランティアとの関係などを代表的なものとして、市民との協働で事業に取り組んできた。現在では、「しょうないREK」や「北摂アーカイブス」や、千里コラボでの市民運営会議での取組みなどを含めて、市民との協働ですすめている。

●委員

豊中子ども文庫連絡会は、長年にわたり図書館と一緒に歩んできたが、ただ単に図書館の事業をボランティアとして手伝うというスタンスではなくて、取組みの初め企画の段階から一緒に考え、知恵を出し合いながら、良いものを創りだそうという観点で臨んでいるし、これからもそういう考え方で歩んでいきたい。

●委員

ホームページのアクセシビリティについてはどうか。

●事務局

ホームページの更新のための組み込みシステムの中に、アクセシビリティチェックがあるので、平均以上のアクセシビリティはあると思う。

●委員

情報弱者へのさらなる取組みとしては、どのようなものがあるか。また今後に向けて考えているか。特に目が見えないとか耳が聞こえないという障害を持つ方ということではなくて、図書館が大切な地域の社会資源として、地域で役割を果たしていくうえで、やはり情報の取得が難しいような方々、引きこもりの若者などに対して社会的な情報弱者への関わりについて聞きたい。

●事務局

図書館へ来館されなくても利用していただけるようなサービスについても、充実させたいと考えてすこしずつ工夫している。たとえばパスワードの発行というワンステップはあるが、インターネットで資料の予約をして、ご家族の方が取りに来ていただくことができる。これは、パソコンや情報機器を使える方ということにはなるが。自分では操作できない子どもさんの場合も、今言った方法で親ごさんが代わりに申込できるようにしている。

●委員

自殺予防の観点や、引きこもりなどの情報弱者に対して、社会とのつながりをどうサポートできるかが大事なことだと思う。ITが使える方たちだけではないので、そういう人へも図書館の使い方の提案をして行ってほしい。

●部会長

他にご意見やご質問はないか。

ここで確認をしておきたい。先ほど指定管理者制度や民間委託についての検討について話題となったとき、「現在は過渡期ととらえてよいか」という表現をされたが、より正確に言うと、「再検討期」ということになると思うので、確認をしておきたい。

今日を含めて4回のスケジュールについても、確認をしておきたい。

●事務局

次回2月16日に、主な検討を行うことになるので、配布された各種の資料を参考にさせていただいて、総合的に中項目ごとのご意見を出していただいて、2回までに出た意見を元に事務局で外部評価のまとめ案のたたき台を作成する。3回目はそのまとめ案を元に検討をしていただいて、4回目には最終案の調整を行うことになる。

「その他」の案件について、事務局からどうぞ。

●事務局

その他の案件についてであるが、2月16日土曜日の午後、ローズ文化ホールで「子ども読書活動フォーラム」を開催する。これは「とよなかブックプラネット事業」関連の催しで、12月末の図書館休館日に、岡町図書館と千里図書館で「知的探究合戦—めざせ！図書館の達人」を実施した

のだが、小学校4年から中学生がグループで休館中の図書館を思い切り使って、自分たちで決めたテーマについて調べたことをまとめて発表してもらった。その時の代表グループの発表や、昨年度学校図書館で行った「好きな作家に手紙を書こう」を通じて人気の高かった、名探偵シリーズの著者の杉山亮さんの「ものがたりライブ」を組み合わせで開催する。現在学校を通じ参加希望者の申し込みを受け付けしている。以上である。

●部会長

それでは、ここでいったん区切りをつけたうえで、傍聴の方からご感想やご意見をいただけたらと思うが。

●傍聴者

図書館に対する質問の数々を聞いていて感じたこととして、常々図書館と図書館職員に対しては、いつ誰に対しても、何をどう聞かれても、図書館の職員誰もが同じように答えられて説明できるように運営してってもらいたいと思っているので、そういう観点から聞いていて大変良かったと思う。この部会で、いろいろな質問が出て、そこから課題が出てきて、次の市民サービスへとつながっていけばいいと思う。

●部会長

本日はありがとうございました。これで閉会とする。